

平成30年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業報告

◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化であり主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中で創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、また陶芸館や創作研修館、信楽産業展示館の3つの施設の運営を通じて県民の陶芸に対する理解と親しみを深め、広く陶芸に関する交流の場として積極的な事業の展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に努めた。

平成30年度は、県および甲賀市から第3期の指定管理の3年目として、中期経営計画（第Ⅲ期）に基づき、県、甲賀市と連携して引き続き施設の適切な運営管理に努めた。また、アーティスト・イン・レジデンス事業において、文化庁の補助金を得て、海外のレジデンス機関との作家の相互派遣や国内のレジデンス機関と連携した研究会の開催など、人的な交流を推進した。さらに、まちなか交流拠点「FUJIKI」を地域連携拠点として活用して、レジデンスアーティストの展覧会をはじめ、運営委員会を通じたスペースの貸出等を行うことで、地域の活性化につなげる取組を実施した。

第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

1. 公園機能の充実

太陽の広場や星の広場などで人々が自由に憩い楽しめるよう公園の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、植栽の維持管理に努め、入園者に快適な空間とサービスを提供した。平成30年度の入園者数は、346,164人（平成29年度353,781人）であった。

また、本県の観光拠点として陶芸の森を広くアピールし、誘客促進に努めた。

(1) 陶芸作品の野外展示

作品の保全に努め、また新たに1作品を設置するなど、誰もが緑豊かな自然の中に点在する作品の魅力を再認識できるよう取り組んだ。

(2) 窯の広場

穴窯をはじめとする7基の薪窯で陶芸家のモチベーションをあげることができた。「しがらき学ノススメ！」では講座のバリエーションを増やし、また、来園者には活きた薪窯を見てもらうことができ、陶芸の森らしい園内散策のポイントになっている。

(3) 花咲く公園

特に、太陽の広場から陶芸館にかけての斜面をはじめ園内沿いの花木などの適切な管理を行い、花咲く公園として景観の向上に努めた。

(4) エクステリアゾーン

信楽産業展示館周辺にガーデンセットなどのエクステリア商品を設置し、信楽焼の強みとされる大型陶器を展示し来園者に実際に使用してもらった。

(5) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及のため、ボランティアによる活動支援を受け、利用者へきめ細かなサービスを提供した。平成30年度登録ボランティア数 45人

ア. ボランティア活動状況

・つちっこプログラム事業補助	20人	
・園内清掃	10人	
・園芸作業	6人	
・研修会参加	7人	
・事業補助作業	2人	
・FUJIKI監視	4人	
・ボランティア・ミーティング	7人	延べ56人

イ. ボランティア研修会

来園する学校、団体に対応するため「登窯、穴窯解説」や「つちっこ！なるほどやきものコーナー」の解説や、来園制作で最も希望の多い「タヌキ制作」を実際に制作するなど、制作サポートや案内のための研修会を行った。

<開催日>5月16日(水) 7人

2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

滋賀県南部地域の観光拠点である陶芸の森へ多くのやきものファンや観光客に来園してもらい、信楽をよりよく知ってもらうよう各種講座や陶器市など様々なレクリエーションイベントを開催した。

(1) しがらき体験 しがらき学ノススメ！

陶芸の森の施設を活用して信楽焼について広く学んでもらえるよう、技法別の講座や穴窯による作品の制作など幅広いテーマを取り上げて陶芸制作講座を開催した。団体向けにも目的にあった講座を別途受け付けることで増収を図った。

講座回数：16回 参加者総数：216人

ア. 実技講座シリーズ

・「ラク焼」の茶碗をつくる」

<開催日>平成30年5月13日(日)

<講師>奥田 英山

<参加者>19人

講師の指導のもと、ラク焼の茶碗を制作した。後日、ラク焼の焼成をおこない赤ラク、黒ラクなどの茶碗が出来上がった。

・「食卓を彩るうつわをつくる」

<開催日>平成30年6月10日(日)

<講師>小川 顕三

<参加者>16人

講師の指導のもと、普段食卓で使用する飯碗、取り皿、湯呑みなどの器を手びねりで制作した。

・「練り込みのうつわをつくる」

<開催日>平成30年7月1日(日)

<講師>村田 彩

<参加者>20人

色土を練り合わせて模様を作り出す「練り込み」の技法で皿、鉢などのうつわを制作した。

・「華やかな角皿を上絵付けする」

＜開催日＞平成30年7月8日(日)

＜講師＞渡部 味和子

＜参加者＞8人

色土を練り合わせて模様を作り出す「練り込み」の技法で皿、鉢などのうつわを制作した。

・「ラク焼の茶碗をつくる」

＜開催日＞平成30年12月2日(日)

＜講師＞奥田 英山

＜参加者＞21人

手びねりで赤ラク、黒ラクなどの茶碗を制作した。後日、ラク焼成をおこなった。

・「ミニ窯をつくる」

＜開催日＞平成31年3月17日(日)

＜講師＞越沼 信介

＜参加者＞14人

ミニ窯を制作、完成後に木炭を燃料にした焼成体験をおこなった。

・「野焼きを学ぶ一磨いてつくる私だけの・・・」

＜開催日＞平成31年3月24日(日)

＜講師＞細川 政己

＜参加者＞24人

5キロの粘土を使用し、壺などを制作。乾燥後磨いて作品を仕上げ、野焼きをおこなった。

イ. 穴窯体験講座

・「信楽酒器をつくる」

＜開催日＞平成30年10月14日(日)

＜講師＞五代 高橋 楽齋

＜参加者＞8人

片口、ぐい呑みなど酒器を制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

・「信楽大壺をつくる」

＜開催日＞平成30年10月27日(土)、28日(日)

＜講師＞小牧 鉄平

＜参加者＞11人

大壺を2日間にわたって制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

・「信楽壺、花入をつくる」

＜開催日＞平成30年11月11日(日)

＜講師＞篠原 希

＜参加者＞5人

壺、花入、蹲などを制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

・「信楽焼の干支をつくる」

＜開催日＞平成30年11月18日(日)

＜講師＞八幡 満

＜参加者＞11人

平成31年の干支・亥の置物を制作した。作品は後日、穴窯で焼成した。

ウ. 穴窯焼成クラスの開催

・「穴窯焼成講座 説明会」

＜開催日＞平成30年9月30日(日)

＜参加者＞15人

台風の接近による休園につき中止、後日粘土の受渡し。

30kgの粘土を使い自由に作品を制作した。実際に焼成することで、焼成技術の習得も同時に目指した。3月下旬に焼成をおこなった。

エ. 登り窯講座

・「信楽焼のうつわをつくる」

＜開催日＞平成30年9月9日(日)

＜講師＞大西 左朗

＜参加者＞13人

食器、茶碗など自由に作陶した。作品は後日、登り窯で焼成した。

・「信楽壺、蹲をつくる」

＜開催日＞平成30年9月23日(日)

＜講師＞神山 直彦

＜参加者＞7人

5kgの粘土を使用し、信楽壺、蹲を制作した。作品は後日、登り窯で焼成した。

・「信楽大壺をつくる」

＜開催日＞平成30年9月29日(土)、30日(日)

＜講師＞神崎 継春

＜参加者＞11人

大壺を2日間にかけて制作した。作品は後日、登り窯で焼成した。

オ. 登り窯 グループ参加の部

参加者をグループで募り、広く業界や県内の陶芸関係者、陶芸教室等に呼びかけて作品を集め登り窯にて焼成し、薪窯による釉薬作品焼成の技術の保存と普及を行なった。焼成は参加者に担当してもらった。

カ. 団体受入

・「京都造形芸術大学通信学部 陶芸スクーリング in 信楽」

＜開催日＞平成30年6月22日(金)～6月24日(日)

＜参加者＞13人

穴窯で焼成する花器などの制作及び陶芸の森、町内の見学をおこなった。

キ. しがらき学ノススメ参加者募集活動（PR経費）

しがらき学ノススメの案内チラシを作成し、陶芸教室や公民館など公共施設を中心に、広く参加を呼びかけた。

(2) イベントの開催・誘致

やきものをテーマにした展示即売会陶を開催し、県内各地で活躍する陶芸家の個性豊かな陶芸作品を広く県内外の人々に紹介するとともに、陶芸に関する交流の場を提供した。

ア. 第12回 信楽作家市 in 陶芸の森の誘致

＜開催日＞平成30年5月2日(水)～5月5日(土・祝)

＜主催＞信楽作家市 in 陶芸の森実行委員会

テント 101張 (昨年度：96張)

出展者 約160人 (昨年度：約160人)

来園者 28,886人 (昨年度：29,803人／4日間 対前年度96.9%)

5月の連休に実行委員会形式で開催した。陶芸関係者には来園者の多いゴールデンウィーク中の陶器販売の機会を、また来園者には「市」のにぎわいと雰囲気を提供することができ、

好評を得た。

イ. 第23回 信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催

＜開催日＞平成30年10月6日(土)～10月8日(月・祝) 3日間
ブース数 133ブース テント：104ブース
フリー：29ブース、
飲食：18ブース
出展者数 146人
来園者数 22,718人（昨年度：22,418人／3日間 対前年度比101.3%）

「作品に触れ作家に触れる」をテーマに県内に在住、在勤の陶芸をはじめとする作家が、自らが制作した質の高い作品の販売をおこなう、作り手と使い手の出会いの場を陶芸の森が提供した。

ウ. 野外音楽イベント「SIVEL WARS 2018」の開催

＜開催日＞平成30年8月12日(日)
＜主催＞SIVEL WARS実行委員会
ステージイベント 15組
ブース数 27ブース（物販：5ブース、飲食：22ブース）
来園者 3,246人

8月の集客対策としてイベント誘致を行った。昨年に引き続き、地元信楽の魅力が詰まったフリーマーケットや飲食ブース、またステージではバンド演奏、BMX、キッズダンスパフォーマンスなど、信楽では類を見ない「野外フェスイベント」として、多く人でにぎわい、入園者増につながった。

エ. わくわくウォーキング in 陶芸の森

＜開催日＞平成30年12月9日(日) ＜参加者＞62人
＜協力＞ぽぽんた倶楽部（総合型地域スポーツクラブ）

オ. 陶芸の森開設30周年企画フォトコンテストの準備（仮）

陶芸の森が開設30周年を迎える令和2年度に新たなフォトコンテストとして作品の展示ができるよう内部検討を進めた。

(3) 作品の貸出事業

県民に気軽に陶芸に親んでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストの研修作品やゲスト・アーティストの作品を、ホテル、公共施設等に貸出しを行い、陶芸文化の普及向上に努めた。

貸出実績 6箇所 計 25作品

(4) 観光および集客促進のための広報活動

新聞広告をはじめとした有料媒体のみならず、WEBを中心とした無料媒体への情報提供や読者プレゼントの提供、パブリシティ、ホームページの充実を通して、積極的な情報発信を行った。

また、SNS（Facebook ページ、Twitter）では、桜の開花や紅葉といった四季折々の情報や、薪窯の焼成風景など、陶芸の森ならではのトピックスを頻繁にアップロードすることで、陶芸の森に親しみを深め、来園いただけるような情報発信に努めた。

【主な掲載・放送実績】

TV 『日曜美術館アートシーン』（NHK）
新聞 『京都新聞』
『中日新聞』

雑誌 『美術手帖 4・5月号』(美術出版社)
『お出かけ美術館&博物館』(エルマガジン社)
『サイクリングを楽しむ本』(京阪神エルマガジン社)
『月刊アートコレクターズ』(生活の友社)
『炎芸術 2018冬』(阿部出版)
『現代插花』(一般財団法人中山文甫会)
『GALLERY』(ギャラリーステーション)
『Casa Brutus』(マガジンハウス)
『景色のいいドライブ[関西版]』(京阪神エルマガジン社)
県広報誌 『滋賀プラスワン 3・4月号』
フリーペーパー 『チェキボン7月号』 ほか

(5) 地域拠点活用事業

25周年記念事業を機に改修を行ったFUJIKI(旧藤喜陶苑)を、陶芸の森地域連携拠点として活用するため、管理運営を地域団体の若手有志を中心に陶芸の森が委嘱した委員で構成する「FUJIKI 運営委員会」に委託し、陶芸の森も主体的に参画することで、地域に根差した施設運営を実施した。陶芸の森サテライトギャラリーとしてレジデンスアーティストの展覧会を行うほか、運営委員会を通じて一般へのスペース貸出を行うことで、地域の活性化へとつながる事業を実施した。

【展覧会】

- ・「ルイズ・コートの視点—海外に初めて信楽焼を紹介した研究者」展
<開催日>平成30年3月10日(土)～4月15日(日)
<主催>公益財団法人滋賀県陶芸の森
- ・「平尾小代子 信楽ちぎり絵展」
<開催日>平成30年4月20日(金)～4月26日(木)
<主催>平尾 小代子
- ・「Ian Wiczorek—Available Now—」(AIR 事業)
<開催日>平成30年5月12日(土)～5月20日(日)
<主催>公益財団法人滋賀県陶芸の森
<出品者>イアン・ウィチョレク (アメリカ/H29スタジオ・アーティスト)
- ・「Luisa Maisel—swirls & pearls—」((AIR 事業)
<開催日>平成30年6月21日(木)～6月27日(水)
<主催>公益財団法人滋賀県陶芸の森
<出品者>ルイザ・メイゼル (フランス/平成30年度スタジオ・アーティスト)
- ・「サルエルパンツ展示会」
<開催日>平成30年7月21日(土)～7月23日(月)
<主催>やまだあやこ
- ・「AIR プロジェクト 旅する陶芸家たち～オランダ・EKWC～」
<開催日>平成30年9月11日(火)～9月16日(日)
<主催>公益財団法人滋賀県陶芸の森
<出品者>田中 哲也、大谷工作室、山田 浩之
- * 関連企画「対話の森」平成30年9月15日(土)
出品作家3名と陶芸の森松井利夫館長とのトークセッション
- ・「ハヤシコウのポスター展」

- <開催日>平成30年9月19日(水)～9月23日(日)
 - <主 催>株式会社ミズコルビノデザイン
 - ・これまで と ここまで と ここから 展
 - <開催日>平成30年10月2日(火)～10月8日(月)
 - <主 催>硝子作家 大下 邦弘
 - <内 容>個展・硝子作品
 - ・シータ・ウォン「adagio adagio」展 (AIR事業)
 - <開催日>平成30年10月14日(日)～10月21日(日)
 - <主 催>公益財団法人滋賀県陶芸の森
 - <出品者>シータ・ウォン
 - ・「Anja Borgersrud 土 Antonella Cimatti」展 (AIR事業)
 - <開催日>平成30年10月21日(土)～10月28日(土) ※台風22号接近に伴い、10月29日は休館
 - <主 催>公益財団法人滋賀県陶芸の森
 - <出品者>アンヤ・ボルゲルスルド、アントネラ・チマッティ
 - ・水彩とパステルの出会い展
 - <開催日>平成30年11月4日(日)～11月18日(日)
 - <主 催>原 新治郎 蕭碧霜
 - <内 容>水彩画(原氏)パステル画(蕭碧霜)の2人展
 - ・信楽荘 ショートステイ【生活】展
 - <開催日>平成31年1月12日(土)～1月18日(金)
 - <主 催>特別養護老人ホーム 信楽荘
 - <内 容>施設紹介も兼ねたショートステイについての展示
 - ・デイビッド・ヘルマーズ「Animal matter in enchanted space」展 (AIR事業)
 - <開催日>平成31年2月20日(水)～2月28日(木)
 - <主 催>公益財団法人滋賀県陶芸の森
 - <出品者>デイビッド・ヘルマーズ
 - ・「信楽 汽車土瓶展」
 - <開催日>平成31年3月9日(土)～3月24日(日)
 - <主 催>公益財団法人滋賀県陶芸の森、横山 絵理(信楽地域おこし協力隊)
- *関連企画「対話の森 vo.2」平成31年3月9日(土)
 畑中 英二および横山 絵理と陶芸の森 松井 利夫館長によるトークショー

【ワークショップ】

- ・風鈴をつくるワークショップ
 - <開催日>平成30年6月16日(土)
 - <主 催>社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮
- ・滋賀近美よみやま講座 月刊学芸員「展覧会とメッセージ」
 - <開催日>平成30年9月1日(土)
 - <主 催>滋賀県立近代美術館
 - <講 師>渡辺 亜由美(滋賀県立近代美術館学芸員)
- ・万華鏡をつくるワークショップ
 - <開催日>平成30年9月8日(土)
 - <主 催>社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮
- ・クリスマスリースを作ろう
 - <開催日>平成30年12月1日(土)

<主 催>社会福祉法人しがらき会 信楽青年寮

<内 容>陶器のリースにさをり織りなど青年寮が用意した材料でオリジナルリースを作る。

・オリジナル缶バッチを作ろう

<開催日>平成31年年 2月16日(土)

<主 催>社会福祉法人 しがらき会 信楽青年寮

<内 容>オリジナル缶バッチを作る

【その他】

・おくだほん

<開催日>平成30年12月 2日(日)

<主 催>おくだ飯実行委員会

<内 容>釜たきご飯体験イベント

(6) 図書室の運営

陶芸に関する専門機関の図書室として、専門書など蔵書の一部を閲覧、貸し出している。

(7) 信楽ホールの活用【収益事業】

県民の陶芸に対する理解と親しみを深めてもらい文化の向上を図るとともに陶芸に関する交流の場とするため、信楽ホールの活用を図った。

<貸出件数> 24件

<主な貸出先> 甲賀市、甲賀市教育委員会、信楽高等学校、信楽学園 他

3. 施設の管理

陶芸の森が、地域の産業振興や文化の創造、環境の拠点として、また来園者にくつろいでいただける場所となるよう、良好な状態を維持するよう心がけた。

また、台風の接近により各種警報が発令されるとともに、交通機関の運行中止、道路の通行止め等が行われたため、災害への警戒と来園者の安全を考慮して閉園とした。それぞれ翌日に園内の被害状況を確認し、県とも情報を共有した。

7月6日(金)、7月7日(土)、8月23日(木)14:00～、9月4日(火)、9月30日(日)

(1) 花木の植栽管理

公益財団法人滋賀県緑化推進会の「ゴルファー緑化協力金事業」よりジンダイアケボノ(サクラの一種)11本の寄贈を受け、園内管理道路沿いへ植栽した。

(2) 施設の維持修繕

県の長期保全計画に基づく建物や設備の保全工事を県および事業者と調整して実施するとともに、園内および各建物にかかる所用の修繕を行い、長期的な機能確保に努めた。

4. 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

平成25年に創設した「陶芸の森やきもの振興基金」への寄付金をお願いするため、陶芸の森での様々な事業活動を行う中で、ご支援をいただけるよう周知活動を行った。

第2 陶芸文化の発信事業

1. 展覧会開催事業

これまで陶芸館では、個性豊かなコレクションを核にして時代の動きをいち早く捉え、新しい視点を交えながら、やきもの文化の幅広い魅力をアピールしてきた。

今年度の展覧会開催事業では、従来からの「やきものファン」に併せて、新しい若者世代にも広がる幅広いファン層に応えるよう、民族学的な視点からやきものを紹介する形象土器展、やきもの産地信楽が陶芸の巨匠たちに与えた影響に注目した展覧会、春の花のシーズンに合わせた親しみやすいテーマで陶芸鑑賞する展覧会など、国内外のやきものに様々な時代や角度から焦点をあてた企画を展開した。また陶芸館の収蔵品を核として企画構成した展覧会を他館に巡回した。

(陶芸館 年間観覧者数 平成30年度21,220人、平成29年度20,793人)

(1) 特別企画「ジャズ・スピリットを感じて…熊倉順吉の陶芸×21世紀の陶芸家たち」展

<開催期間>平成30年4月1日(日)～6月17日(日) 67日間(平成29年度からの継続)

<観覧者>5,773人(1日平均86人)

・関連企画

「ルイズ・コートの視点—海外に初めて信楽焼を紹介した研究者」展

第一会場：陶芸館ギャラリー

開催日 平成30年3月10日(土)～6月17日(日)

入館者 14,035人

第二会場：FUJIKI(陶芸の森地域連携拠点)

開催日 平成30年3月10日(土)～4月15日(日)(再掲)

入場者 350人

・関連事業：

ギャラリートーク

開催日 平成30年4月30日(月・振休) 参加者 20人

開催日 平成30年5月27日(日) 参加者 20人

熊倉順吉の愛好していたナンバーを聞きながら～ジャズとともに熊倉の作品を鑑賞

SONY ROLLINS「SAXOPHONE COLOSSUS」/ORNETTE COLEMAN「FREE JAZZ」/BILL EVANZ「PORTRAIT IN JAZZ」

ジャズコンサート「栗田洋輔ジャズ・カルテット～Pottery in Music～」

開催日 平成30年4月21日(土) 入場無料

会場 陶芸の森内 信楽産業展示館ホール

入館者 163人

本展覧会では、戦後の前衛陶芸を率いた代表作家の熊倉順吉の陶芸を振り返るとともに、彼の熱い精神に触れ、21世紀を問い直そうとする現代の若手作家たちの作品も併せて展示した。また、関連企画では、ジャズコンサートを開催し集客増に努めた。

(2) 特別企画「世界の形象土器」展

<開催期間>平成30年6月24日(日)～9月24日(月・振休) 77日間

(台風のため7月6日、7月7日、8月23日半日、9月4日は臨時休館)

<観覧者>6,615人(1日平均86人)

・関連事業：

ギャラリートーク

開催日 平成30年8月12日(日)

参加者 20人

レクチャー「インドネシアの野焼土器」川崎 千足氏

開催日 平成30年8月11日(土・祝)

参加者 38人

《親子向け特別講座》子どもやきものシリーズ

- ・世界にひとつ！オリジナル貯金箱をつくろう！

開催日 平成30年7月21日(土)

講師 木ノ戸 久仁子

参加者 33人

- ・ハンコで埋めよう！誰でもかんたん、ステキなお皿づくり！

開催日 平成30年7月22日(日)

講師 橘功 一郎

参加者 26人

- ・ウェルカムアニマルをつくろう☆

開催日 平成30年7月28日(土)

講師 津守 愛香

参加者 27人

- ・切って！貼って！カラフルなうつわをつくろう☆

開催日 平成30年7月29日(日)

講師 高間 智子

参加者 34人

- ・ドキドキ！ワクワク！花びんづくり！

開催日 平成30年8月4日(土)

講師 岡田 南央

参加者 17人

- ・楽しくランタンをつくろう！

開催日 平成30年8月5日(日)

講師 灘 さとみ

参加者 29人

世界の国々で、作られている土器には人々の祈りが込められ、精霊や祖霊など、生き抜くための祈りが土器の模様や造形に表現されている。この展覧会では、インドネシア、パプアニューギニア、メキシコ、ペルー、ガテマラなどの世界各地の形象土器の数々を紹介した。

(3) 特別展「信楽に魅せられた美の巨匠たち」

<開催期間>平成30年10月6日(土)～12月20日(木) 65日間

<観覧者> 7,588人(1日平均 117人)

- ・関連事業

ギャラリートーク

開催日 平成30年10月28日(日) 参加者 25人

平成30年11月11日(日) 参加者 20人

《子ども向け体験講座》

- ・本格手びねりで、閉じられた形のランプシェードづくり [後援] 甲賀市教育委員会

開催日 平成30年10月13日(土) 参加者 23人

- ・カラービーズで彩る 色模様のお皿づくり！

開催日 平成30年10月21日(日) 参加者 20人

近現代を代表する信楽ゆかりの美の巨匠13人の、作品や関連資料など97件を紹介。彼等の足跡をたどりながら、幅広い交流のなかで育まれてきた信楽のやきもの文化の魅力を検証した。

(4)①特別企画「陶の花・FLOWERS」展／

②細川正廣コレクション寄贈記念「近江のやきものの魅力」展（同時開催）

<開催期間>平成31年3月12日(火)～31日(日) 18日間（平成31年度へ継続）

<観覧者> 1,437人（1日平均 80人）

①花は、古来より様々な芸術のジャンルにおいて表現されてきた。それはやきものにおいても例外ではない。中国陶磁の影響を受けながら発展してきた古の日本陶磁においては華やかな花を意匠化した中国由来の吉祥文様が器を彩った。また現代陶芸においても、強い生命力、美しさ、儚さ、清々しさを漂わせる花をモチーフとする作家は多く、それぞれの思いをもって表現をおこなっている。本展では、「花」を入り口にして、様々な時代とシーンから多彩な陶の表現の世界を探った。春の花咲くシーズンに合わせて開催することにより、取材誘致や集客増をはかった。

②細川正廣コレクションは、大津市在住の細川正廣氏が「滋賀の地で生み出されたやきもの歴史と素晴らしさを後世にまで伝えたい」という思いから滋賀県立陶芸の森に寄贈された滋賀ゆかりの古陶磁コレクションである。平成19年度より続けてご寄贈をいただき、平成29年度には100点を数えるまでになった。本展はこれを記念し、コレクションの中から約40点を選び紹介した。

(5) THE YUNOMI 湯呑茶碗展」の他館への巡回

<展覧会名>企画展「THE YUNOMI 湯のみ茶碗 一ちよつと昔の、やきもの日本縦断旅」

<会場>愛知県陶磁美術館 住所：愛知県瀬戸市南山口町234番地

<開催期間>平成30年9月1日(土)～10月21日(日) 43日間

(※9月30日は台風のため臨時休館)

<観覧者> 3,962人（1日平均 92人）

陶芸館所蔵の坂口湯呑茶碗コレクションによって構成・企画した展覧会を他館へ巡回開催した。陶磁ネットワーク加盟館との連携協力により、滋賀県立陶芸の森と所蔵コレクションについて、他県で周知することができたことや、また愛知県陶磁美術館で展覧することにより、当コレクションに関わる東海地方の陶磁器についての学術情報を新たに入手することができた。

(6) 「うつわドラマチック」展の他館への巡回

<展覧会名>企画展「うつわドラマチック」

<会場>岩手県立美術館（岩手県盛岡市）

<開催期間>平成30年11月14日(水)～12月20日(木) 32日間

<観覧者> 4,218人（1日平均 132人）

平成29年度に当館で開催した展覧会を、東北の美術館へ巡回開催した。滋賀県立陶芸の森と所蔵コレクションについて、他県で周知することができた。

(7) 陶磁ネットワーク会議への参加

平成20年度に結成された県立8館の陶芸専門美術館による「陶磁ネットワーク会議」は、加盟館同士の交流や情報交換を進め、共同企画展の開催、共同研究、共同広報、各館所蔵品の相互利用、緊急時の協力体制の強化などを目的とし、毎年1回開催されている。

平成30年度は、当館が幹事として、「地元産地との連携と対応」をテーマに本会議を主催した。

(8) 収蔵品収集（管理）事業

陶芸館では質の高い収蔵品収集につとめるため、作品についての情報収集や調査研究を行っている。本年度の収蔵品収集では、収蔵品収集審査会や価格評価委員会で審議を行い、購入作品5点、寄付作品64点を収集した。そして、継続して収蔵品（収蔵庫）の点検整理作業を実施し、作品の有効活用と保存環境の整備に努めるとともに、高所作業台を新規リースとするなど機器の整備などを進めた。

(9) 陶芸館ギャラリー企画展

ア. 「ルイズ・コートの視点—海外に初めて信楽焼を紹介した研究者」展（再掲）

＜開催期間＞平成30年4月1日（日）～6月17日（日）（平成29年度からの継続） 67日間

イ. アーティスト・イン・レジデンス企画展「思い出は海の向こうに」

＜開催期間＞平成30年6月24日（日）～7月8日（日） 13日間

＜出品作家＞7名 12点

Antje Scharfe（ドイツ／平成29年度ゲスト・アーティスト）、Antonella Cimatti（イタリア／平成29年度ゲスト・アーティスト）、Ashwini Bhat（アメリカ合衆国／平成29年度ゲスト・アーティスト）、Joris Link（オランダ／平成29年度文化庁補助事業対象アーティスト）、Kathryn King（アメリカ合衆国／平成29年度文化庁補助事業対象アーティスト）、Matias Liimatainen（フィンランド／平成29年度スタジオ・アーティスト）、Vilma Villaverde（アルゼンチン／平成29年度ゲスト・アーティスト）

ウ. 「子どもたちの土の造形—本物との出会いから展」 38日間

＜開催期間＞平成30年7月14日（土）～8月26日（日）

エ. アーティスト・イン・レジデンス企画展「Hello, Ceramic World +82」

＜開催期間＞平成30年10月6日（土）～12月16日（日） 65日間

平成30年度に創作研修館に滞在したゲスト・アーティストの成果展。本展では、若手からベテランまで、幅広い世代の韓国出身作家5人の作品8点を紹介した。ワークショップを展開し、アーティスト・イン・レジデンス事業を広く知ってもらえる機会となった。

オ. 「陶芸館・新収蔵の逸品展」

＜開催期間＞平成31年3月12日（火）～3月31日（日） 18日間

「日本の現代陶芸」「海外の現代陶芸」「滋賀ゆかりの陶芸」「クラフトと陶磁器デザイン」という収集方針の柱のもとに、陶芸館が平成29、30年度に新たに収蔵した作品の中から、代表的作品約20点を初公開した。

(10) 博物館実習

＜実施期間＞平成30年8月21日（火）～8月24日（金） 4日間
実習生1名（成安造形大学）

(11) カタログ販売

これまでの特別展等の展覧会カタログをミュージアムショップで販売した。

(12) 展覧会監視警備

展覧会開催期間中の火災や盗難、事故等を防止するとともに、施設物品の保全、展覧会業務の円滑な運営を図るための人的監視業務、魅力的な美術館づくりのためにミュージアムショップの物品販売業務を行った。

(13) 子ども事業と連動した陶芸館入館もう一回券

「つつっこプログラム 陶芸館に行こう！」の回収

<回収期間> 4月1日(日)～3月31日(日) (回収数:53枚、計123人が入館)

2. 創作事業 (アーティスト・イン・レジデンス事業 (AIR事業))

やきものの産地である信楽でレジデンス事業を行っているメリットを最大限に、そして双方向に活かし、やきものの産地特有の伝統的な要素と現代のトレンドとの交流を活発化させるよう努めた。

(1) スタジオ・アーティストの受入れ 48人 (延べ52回)

内訳: 日本在住-11人 (延べ15人)、アメリカ-4人、オランダ-1人、ギリシャ-1人、スウェーデン-4人、フランス-3人、台湾-3人、香港-8人、中華人民共和国-2人、フィンランド1人、イギリス-4人、カナダ-3人、オーストラリア-3人、

デニス・レイネン (オランダ 4/3-5/15)、ルイザ・メイゼル (フランス 4/1-6/30)、工藤玲那 (日本 4/1-4/20)、ケヴィス・ウォン (香港 4/1-4/30)、ソフィー・バイユ (フランス 4/3-5/23)、アンニカ・スヴェンソン (スウェーデン 4/8-5/22)、イアン・ウィチョレク (アメリカ 4/1-5/31)、斎藤華奈子 (日本 4/3-5/31)、井掛紗百合 (日本 4/1-10/28) 橋本知成 (日本 4/1-4/30、2/1-3/31)、李岱容 (台湾 4/24-7/17)、今村こずえ (アメリカ 5/1-6/30)、シータ・ウォン (香港 5/1-10/31)、奈良美智 (日本 5/21-25、6/13-6/27、12/8-12/14)、呉育霽 (台湾 台湾文化センターからの受入 6/1-8/31)、伍嘉浩 (香港 6/1-10/31)、フェニー・チャン (香港 7/1-8/12)、ラウ・ワンタット (香港 7/20-8/16)、小出ナオキ (日本 8/1-8/31)、李海霖 (中華人民共和国、文化庁補助事業交換プログラム招へい者、8/1-9/10)、タノス・アタナシオシス (ギリシャ 8/1-10/7)、ヴァージニア・クリセヴィシュート (スウェーデン 9/1-11/30)、アントニオ・ウォン (香港 8/21-1/7)、ヴァネッサ・ロー (香港 9/1-10/31)、マン・ヤウ (フィンランド、フィンランドセンターとの連携によるスタジオ・アーティストの受入プログラム、10/16-11/30)、ネイサン・ウィルエヴァー (アメリカ、文化庁補助事業交換プログラム招へい者、9/24-11/3)、マット・レブシャー (アメリカ、文化庁補助事業交換プログラム招へい者、10/1-11/8)、アマンダ・チャンバーズ (イギリス 10/2-10/31)、マーティン・ハーマン (イギリス 10/4-11/3)、ウェンシー・ハーマン (イギリス 10/4-11/3)、バーバラ・トン (香港、10/2-3/31)、シュ・チャオチー (中華人民共和国、10/18-1/18)、ジェニファー・リー (イギリス、10/9-11/17)、尾形アツシ (日本 11/1-12/11)、利庭芳 (台湾、文化庁補助事業交換プログラム招へい者、11/13-2/24)、デール・ドロッシュ (カナダ、文化庁補助事業招へい者、1/4-2/9)、デイビッド・ヘルマーズ (オーストラリア 11/25-3/1)、石山哲也 (日本 11/6-12/28)、鈴木良一 (日本 12/8-12/28、2/21-3/30)、アリエル・ゴート (フランス 1/4-3/28)、エイミー・ペレジャン=カポネ (オーストラリア 1/10-3/30)、エイミー・ケネディー (オーストラリア 1/23-3/29)、マリー・ダニエル (カナダ 2/13-3/29)、デブラ・スローン (カナダ 2/13-3/29)、中里隆 (日本、3/1-3/30)、松永圭太 (日本、3/15-3/31) レベッカ・ラースドッター (スウェーデン、1/31-3/31)、エク・オスカー (スウェーデン、1/31-3/31)

(2) ゲスト・アーティストの招聘 (文化庁補助事業枠含む) 合計 19人 (国内7人、海外12人)

招へい者概要

陶芸の森 AIR プログラム枠 12人

国内5人

海外7人 (大韓民国4人、ドイツ1人、アルゼンチン1人、タイ1人)

文化庁補助事業枠

国内2人

海外5人 (アメリカ2人、台湾1人、中国1人、フランス1人)

陶芸の森 AIR プログラム枠

・アンチェ・シャーフエ Antje Scharfe

居住地: ドイツ

滞在期間: (前年度から継続) 平成30年4月1日～平成30年4月15日

滞在日数: 15日

概略: 薪窯内でツクとして何度も焼かれ、自然釉がかかった耐火煉瓦に着目し、その

形状や模様を活かして煉瓦に絵付けを行った。また、石膏型を使用して、壺形のシルエットを持った2.5次元の器作品の制作を行った。

・原 菜央

居住地：日本 京都府

滞在期間：(前年度から継続) 平成30年4月1日～平成30年5月10日

滞在日数：40日

概 略：磁土での大型作品の制作に挑戦している。土台となる部分にはブレンド土を使用し、上部分を磁土で制作した。素焼きの後上絵付を行い、5.2m³ガス窯にて焼成した。

・趙 光勳 CHO, Kwang hun

居住地：韓国

滞在期間：平成30年4月17日～平成30年7月8日

滞在日数：83日

概 略：韓国の若者の思いを代弁することをコンセプトに制作した。陶芸の森ブレンド土を使い成形をおこなった後に黒化粧、白化粧を重ねて焼成した。焼成は、5.2m³ガス窯にて行った。

・金 理有 KIM, Ri yoo

居住地：日本

滞在期間：平成30年5月18日～平成30年7月13日

平成30年8月16日～平成30年9月7日

平成30年9月23日～平成30年10月2日

平成30年10月17日～平成30年11月30日

平成31年1月25日～平成31年3月31日 (継続)

滞在日数：201日

概 略：量産の信楽焼の狸の石膏型を使用して成形し、縄文土器にインスピレーションを得た加飾を加えて作家独自の狸の置物を表現した。作品には金属光沢のある釉薬が施され、近未来を彷彿させる狸の置物となった。制作は平成31年度へ継続。

・田中 哲也

居住地：日本 滋賀県

滞在期間：(前年度から継続) 平成30年5月15日～平成30年9月30日

滞在日数：139日

概 略：陶芸の森ブレンド土を使用し、大型作品のパーツの制作を行った。

パーツは5.2m³ガス窯で焼成され、ボルトを使ってパーツ同士を結合予定。

・ヴィルマ・ヴィラバーデ Vilma Villaverde

居住地：アルゼンチン

滞在期間：(前年度から継続) 平成30年5月24日～平成30年6月30日

滞在日数：38日

概 略：2mを超える大型の陶人形の制作を行った。作品は2分割で成形され、顔料を使って着色を施した後に、5.2m³ガス窯にて焼成された。

・李 秀鐘 REE, Soo jong

居住地：韓国

滞在期間：平成30年7月1日～平成30年8月7日

滞在日数：38日

概 略：韓国の伝統的な白磁大壺(満月壺、ムーンジャー)の制作を行った。ろくろで

挽いた2つの鉢の口同士をつなぎ合わせ一体の壺とした。ガス窯を使用した還元焼成を行った。また、穴窯の焼成も行った。

- ・ 李 康孝 LEE, Kang hyo
居住地：韓国
滞在期間：平成30年7月1日～平成30年8月7日
滞在日数：38日
概略：韓国の伝統的なやきもののひとつであるオンギ（甕）を展開させた作品を制作した。ろくろや手びねりで成形した赤土の器表面に、白化粧や色化粧を施して焼成した。作品の一部は穴窯にて焼成された。
- ・ 呂 宣九 YUH, Sun koo
居住地：韓国
滞在期間：平成30年6月15日～平成30年8月15日
滞在日数：62日
概略：陶芸の森ブレンド土、また磁器土を使用して、手びねりで大型の造形作品を制作した。また、器物の制作も並行して行い絵付けをして焼成した。
- ・ 塩谷 良太
居住地：日本（文化庁補助事業招へい者）
滞在期間：平成30年7月20日～平成30年9月25日
平成30年11月5日～平成30年11月7日
平成30年12月20日～平成31年1月8日
滞在日数：91日
概略：陶芸の森ブレンド土を使用し、大物作品2点の制作を行った。有機的な造形の内側に多数の構造を張り巡らせ、造形の仕組みと形態の関係性について意識した作品となった。内1点は17分割して焼成を行い、完成後は4mほどの大きさとなる。焼成は5.2 m³ガス窯を使用して行った。
- ・ 大石 早矢香
居住地：日本
滞在期間：平成30年7月1日～平成30年8月31日
平成31年1月4日～平成31年3月6日
平成31年3月20日～平成31年3月25日
滞在日数：130日
概略：イザナギ、イザナミの神話をモチーフとして2点のデコラティブな大物レリーフ作品の制作を行った。素焼き後には釉薬や金彩で着色を行った後、さらに数回の焼成を行う。作品は各4分割して成形、焼成を行った。作品は5.2 m³ガス窯や電気窯を使用して行った。作品は31年度に陶芸館ギャラリーにて展示予定。
- ・ 若杉 聖子
居住地：日本（文化庁補助事業招へい者）
滞在期間：平成30年11月3日～平成31年3月16日
滞在日数：134日
概略：石膏型の成形から泥漿鑄込み、焼成までを行う。植物をモチーフとし葉が重なった並び立った造形作品を制作した。普段の作家の制作では主に磁土を使用するが、今回の滞在では黒色の陶土による作品の制作も行った。
- ・ 新里 明士
居住地：日本

滞在期間：平成30年11月27日～平成30年12月28日

滞在日数：32日

概 略：普段は磁器の器の仕事をしているが、信楽の原土を使用した土ものの仕事にも取り組んでいた。60 c mから80 c mほどの壺型のオブジェ作品の制作を行った。

・ポンパン・ソティブラパー・アー

居 住 地：タイ

滞在期間：平成30年11月2日～平成31年1月31日

滞在日数：60日

概 略：自身の制作のプロセスを仏教の教えでもある瞑想(マインドフルネス)と捉え、自己との対話をテーマに制作を行った。切っ立ちの器やオブジェなどの表面を多色の顔料で数層に重ねて塗装し、コテでその一部を削り取っている。作品表面には下地の色と表面の色が無作為にみられ、星空や宇宙を思わせる作品となった。

(3) 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会等

・第1回オープン・スタジオ

<開催日>平成30年4月29日(日)

<会 場>管理棟視聴覚室、創作研修館

<講 師>趙 光勳(韓国/平成30年度ゲスト・アーティスト)

<参加者>15人

<内 容>アーティスト・トーク、スタジオ見学

韓国の若手陶芸家である趙光勳は、社会の理不尽さに対する作品制作について話した。また滞在経験のあるCLAYARCH GIMHAEについて紹介した。スタジオでは、制作する作品について、技法や過程を参加者と共有した。

・第2回オープン・スタジオ

<開催日>平成30年5月13日(日)

<会 場>創作研修館

<参加者>5人

<内 容>滞在するゲスト・アーティスト、またスタジオ・アーティストの作業現場の見学を行った。

・第3回オープン・スタジオ

アーティスト・トーク「韓国の陶芸家たち」

<開催日>平成30年7月8日(日)

<会 場>管理棟視聴覚室、創作研修館スタジオ

<講 師>李 秀鐘(韓国/平成30年度ゲスト・アーティスト)

李 康孝(韓国/平成30年度ゲスト・アーティスト)

呂 宣九(韓国/平成30年度ゲスト・アーティスト)

<参加者>33人

<内 容>アーティスト・トーク、ワークショップ

李秀鐘氏、李康孝氏、呂宣九氏の3人によるアーティスト・トークを開催した。それぞれ自身の制作に対する思いと手法について解説された。スタジオでは、制作中の作品の見学、ワークショップ、質疑応答を行った。

・第4回オープン・スタジオ

アーティスト・トーク「塩谷良太、大石早矢香」

<開催日>平成30年8月5日(日)

<会 場>創作研修館、視聴覚室

<講 師>塩谷 良太 (東京都/平成30年度ゲスト・アーティスト)

大石 早矢香 (大阪府/平成30年度ゲスト・アーティスト)

<参加者>35名

<内 容>アーティスト・トーク、スタジオ見学

塩谷氏は「仕組みとリアリティー」という自身の制作テーマについて解説した。

大石氏はカタチと装飾をテーマに自身の作品について解説された。スタジオでは、作品の制作現場の見学を行い、質疑応答の時間とした。

・第5回オープン・スタジオ

<開催日>平成30年10月14日(日)

<参加者>6人

<講 師>ネイスン・ウィルエヴァー(アメリカ、文化庁補助事業交換プログラム招へい者)

マット・レプシャー(アメリカ、文化庁補助事業交換プログラム招へい者)

<内 容>ネイスン・ウィルエヴァー、マット・レプシャーの制作を中心にスタジオの見学を行った。

・トークショー「クラフト・スクールUSーヘイスタックとペンランド」

<開催日>平成30年10月31日(水)

<会 場>管理棟視聴覚室、創作研修館スタジオ

<参加者>20人

<講 師>ネイスン・ウィルエヴァー(アメリカ、文化庁補助事業交換プログラム招へい者)

マット・レプシャー(アメリカ、文化庁補助事業交換プログラム招へい者)

<内 容>ネイスン・ウィルエヴァー氏はヘイスタックレジデンスについて話をされた。
マット・レプシャー氏は、現在3年間のレジデンスプログラムで滞在中のペンランドの施設について話をされた。スタジオでは作家の制作作品を鑑賞しての質疑応答を行った。

・第6回オープン・スタジオ

<開催日>平成30年11月11日(日)

<参加者>5人

<講 師>マン・ヤウ

(フィンランド、フィンランドセンターとの連携によるスタジオ・アーティストの受入プログラム)

<内 容>創作研修館スタジオの見学を行った。

・トークショー「マン・ヤウーフィンランドでの陶芸制作ー」

<開催日>平成30年11月23日(金)

<会 場>管理棟視聴覚室、創作研修館スタジオ

<参加者>16人

<内 容>マン・ヤウは陶芸の枠だけに収まらない多ジャンルをまたいだ表現の可能性について話をされた。

・トークショー「台南芸術大学ー台湾の陶芸事情と利庭芳の制作ー」

<開催日>平成30年12月16日(日)

<参加者>16人

<講 師>利庭芳 (台湾、文化庁補助事業交換プログラム招へい者)

<内 容>利庭芳は台南芸術大学の施設や環境について話していただいた。また彼女が現在教鞭を執る長栄大学の様子やその周辺の陶芸施設の様子などを解説していただい

た。

・トークショー

<開催日>平成30年1月19日(土)

<参加者>18人

<講師>ポンパン・ソティプラパー・アー (タイ/平成30年度ゲスト・アーティスト)
デール・ドロシュ (カナダ/文化庁補助事業交換プログラム招へい者)

<内容>ソティプラパーは仏教思想を基に自身や他者との関わり方を探求することについて話された。

ドロシュはディレクターを務めるレジデンス施設、AIR バロリスについて解説し、海外の陶芸施設の情報を収集できる場となった。

・第7回オープン・スタジオ

<開催日>平成30年3月3日(日)

<参加者>12人

<講師>金 理有 (日本、平成30年度ゲストアーティスト)
若杉 聖子 (日本、平成30年度ゲストアーティスト)
大石 早矢香 (日本、平成30年度ゲストアーティスト)

<内容>創作研修館スタジオの見学

・トークショー「金理有と若杉聖子の活動について」

<開催日>平成31年3月3日(日)

<参加者>22人

<講師>金 理有 (日本、平成30年度ゲストアーティスト)
若杉聖子 (日本、平成30年度ゲストアーティスト)

<内容>金 理有は現在に至るまでの思考の変遷や現在の作家活動をする上で考えていることについて話した。また、若杉 聖子は石膏型への情熱や海外での制作経験について話した。

(4) 陶芸館ギャラリー、創作研修館ギャラリー、FUJIKIを基点とした情報発信、活性化

陶芸館ギャラリー、創作研修館ギャラリー及び、陶芸の森が町内への情報発信拠点として設置するFUJIKIを基点にアーティスト・イン・レジデンス事業の一層の情報発信、活性化を図った。上記のギャラリーを基点として滞在する作家の展覧会活動を積極的に行い、制作場所としての陶芸の森の魅力を伝え、レジデンス事業の情報発信に努めた。

またFB等のSNSを有効活用し、展覧会情報等の広報を積極的に行った。

◎滞在作家の活動等

・MIHO MUSEUMにて展覧会の鑑賞をおこなった。また作家数名を連れて町内の窯元を見学した。(1回実施)

・地域連携拠点FUJIKIにて、滞在作家による作品展示を開催した。

「Ian Wiczorek - Available Now -」(再掲)

<開催日>平成30年5月12日(土)～5月20日(日) 9日間

<会場>FUJIKI (陶芸の森地域連携拠点)

<出品者>イアン・ウィチョレク (アメリカ/H29スタジオ・アーティスト)

<参加者>180人

<内容>オープニングセレモニー/アーティスト・トーク

「Luisa Maisel - swirls & pearls -」(再掲)

<開催日>平成30年6月21日(木)～6月27日(水) 7日間

<会場>FUJIKI (陶芸の森地域連携拠点)

<出品者>ルイザ・メイゼル (フランス/平成30年度スタジオ・アーティスト)

<参加者>93人

<内 容>オープニングセレモニー/アーティスト・トーク

- ・ゴ・カホ「BIWAKO ビエンナーレ 2018」
<開催日>平成30年9月15日~11月11日
<会 場>近江八幡市内(滋賀県)
- ・金 理有「苗字といみなと字」
<開催日>平成30年10月3日~10月9日
<会 場>大阪高島屋ギャラリーNEXT(大阪府)
- ・石山 哲也「ICON-あの輝ける日々」
<開催日>平成30年10月5日~11月11日
<会 場>築空間(台湾・台北)
- ・バネッサ・ロー
<開催日>平成30年10月14日~10月21日
<会 場>創作研修館ギャラリー
- ・シータ・ウォン「adagio adagio」
<開催日>平成30年10月14日~10月21日
<会 場>FUJIKI(信楽町)
- ・若杉 聖子 「個展」
<開催日>平成30年10月19日~10月27日
<会 場>あかまんま(群馬県)
- ・マーティン・ハーマン、ウェンシー・ハーマン「身份：跨越空間」
<開催日>平成30年10月24日~10月31日
<会 場>創作研修館ギャラリー
- ・アマンダ・チャンバーズ「被爆樹木」
<開催日>平成30年10月24日~10月28日
<会 場>創作研修館ギャラリー
- ・新里 明士「新里明士展」
<開催日>平成30年11月1日~11月29日
<会 場>板室温泉大黒屋サロン(栃木県)
- ・ジェニファー・リー「ジェニファー・リー展」
<開催日>平成30年11月3日~12月8日
<会 場>現代美術 艸居(京都府)1
- ・大石 早矢香「大石早矢展-identify-」
<開催日>平成30年11月16日~12月4日
<会 場>ギャラリーSophara(京都府)
- ・利 庭芳
<開催日>平成30年12月16日
<会 場>創作研修館ギャラリー
- ・新里 明士「新里明士/陶磁器展 蓋物を中心に」
<開催日>平成30年11月18~11月22日
<会 場>寺田美術 Antiques&Gallery(東京都)
- ・塩谷 良太「塩谷良太展 かたちに、かたちのないもの」
<開催日>平成30年11月24日~12月2日
<会 場>栗東芸術文化会館きさら(滋賀県)
- ・若杉 聖子「個展」
<開催日>平成31年1月10日~1月20日
<会 場>ぎやらりい栗本(新潟県)
- ・ポンパン・ソティプラパー・アー
<開催日>平成31年1月16日~1月23日
<会 場>創作研修館ギャラリー
- ・デール・ドロシュ

- <開催日>平成31年2月7日
- <会場>創作研修館ギャラリー
- ・新里 明士「陶の表現四人展」
- <開催日>平成31年2月15日～2月24日
- <会場>和光ホール（東京都）
- ・デイビッド・ヘルマーズ「Animal matter in enchanted space」
- <開催日>平成31年2月20日～2月28日
- <会場>FUJIKI（信楽町）
- ・新里 明士 トーク「感性と技術と空間」
- <開催日>平成31年2月23日
- <会場>Kashiya（京都府）
- ・アリエル・ゴート
- <開催日>平成31年3月16日～3月23日
- <会場>創作研修館ギャラリー
- ・マン・ヤウ “Shiga-Love and Magic Carpets”
- <開催日>平成31年1月11日～1月31日
- <会場>キャンプガーデン（フィンランド）
- ・イケムラ・レイコ「イケムラレイコ 土と星 Our Planet」展
- <開催日>平成31年1月18日～4月1日
- <会場>国立新美術館（東京）

（5）国内外の機関との連携

ア. 海外の機関との連携

「海外レジデンス機関との交換プログラム」の活用等により、4レジデンス機関と連携して、計作家10人の相互に派遣、受入した。

（ア）文化庁補助事業「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2018」海外のアーティスト・イン・レジデンス機関との交換プログラムによる、陶芸家を受入および派遣

・CRAFT SCHOOL US（アメリカ）

受入者1：マット・レプチャー	受入期間：平成30年9月26日～11月3日
受入者2：ウィーレヴァー・ネイサン	受入期間：平成30年10月2日～11月19日
派遣者1：工藤 玲那（京都府）	派遣期間：令和元年5月～6月（予定）
派遣者2：白木 千華（三重県）	派遣期間：令和元年5月～6月（予定）

・台湾国立台南芸術大学（台湾 ROC）

受入者：利 庭芳（リ・ティン・ファン）	受入期間：平成30年11月12日～12月24日
派遣者：藤本 秀	派遣期間：平成30年11月1日～11月31日

・中国美術学院（中国）

受入者：李海霖（リ・ハイリン）	受入期間：平成30年8月1日～9月15日
派遣者：福本 歩（神奈川県）	派遣期間：平成30年10月25日～11月25日

・バロリス AIR（フランス）

受入者：デール・ドロシュ（Dale Dorosh）	受入期間：平成31年1月4日～2月10日
派遣者：岩村 園（京都府）	派遣期間：平成31年2月11日～3月21日

（イ）海外の芸術関係団体との連携によるレジデンス・アーティストの受入

・フィンランド文化センター（フィンランド）

受入者：マン・ヤウ

・台北駐日経済文化代表処台湾文化センター（台湾）

受入者：呉育霈（ウー・ユーペイ） 受入期間：平成30年6月1日～8月31日

イ. 国内の機関との連携

文化庁の補助事業として、「滋賀県立陶芸の森アーティスト・イン・レジデンス国際文化交流促進事業2018」において、「アーティスト・イン・レジデンス研究会及びトークショー」を2回開催し、「産地でおこなうレジデンスの意義」、「レジデンスの評価方法」などについて議

論を深めるなど、また互いの連携強化を図った。

(ア)専門的人材の育成および(イ)情報共有機会

○第1回アーティスト・イン・レジデンス研究会 参加者 20人

<主催>公益財団法人 滋賀県陶芸の森(企画立案)

<参加機関>女子美術大学(東京都)・益子国際工芸交流館/益子陶芸美術館(栃木県)・
公益財団法人 瀬戸市文化振興財団(愛知県)・公益財団法人京都市芸術文化
協会・遊工房アトスペース(京都府)

<会場>女子美術大学杉並キャンパス

■アーティスト・イン・レジデンス研究会

開催日:平成30年9月23日(日)

モデレーター:菅野 幸子(AIR Lab アーツ・プランナー/リサーチャー)

日沼 禎子(女子美術大学教授)

・キーノートスピーチ:「大学教育の現場から-工芸学科 工芸専攻における教育・
AIRと美術大学との実験的取り組み」

スピーカー:吉田 潤一郎(女子美術大学 工芸専攻 教授)

・遊工房アトスペース取組紹介

・「各レジデンスの近況報告」

■トークショー

参加者 60人

「多彩な技術と産地における AIR の役割、可能性-ローカルからグローバルに」

開催日:平成30年9月24日(月・祝)

テーマ及びスピーカー:

「海外でのレジデンス経験」 伊藤 準(陶芸家、瀬戸)

「ヨーロッパ・セラミック・ワークセンター(EKWC)でのレジデンス」

西條 茜(陶芸家・美術家、京都)

「益子焼の伝統的な技術、若手陶芸家の育成について AIR への期待」

床井 崇一(益子焼伝統工芸士会会長、益子)

「私のレジデンス体験—アジアからアメリカ、ヨーロッパへ」

村田 彩(陶芸家、信楽)

○第2回アーティスト・イン・レジデンス研究会 参加者 28人

<主催>公益財団法人 滋賀県陶芸の森(会場、企画立案、当日運営)

<参加機関>女子美術大学(東京都)・益子国際工芸交流館/益子陶芸美術館(栃木県)・
公益財団法人 瀬戸市文化振興財団(愛知県)・公益財団法人京都市芸術文化
協会(京都府)・奈良県国際芸術家村推進室(奈良県)

■アーティスト・イン・レジデンス研究会

開催日:平成30年12月11日(火)

モデレーター:菅野 幸子(AIR Lab アーツ・プランナー/リサーチャー)、

日沼 禎子(女子美術大学准教授)

・参加機関からの近況報告等

・討議「陶芸の森の AIR プログラムを事例にして分析、評価する」

開催日:平成30年12月12日(水)

・「アーティスト・イン・レジデンスの評価を考える 1」

吉本 光宏(ニッセイ基礎研究所研究理事)

・ワークショップ「アーティスト・イン・レジデンスの評価」

■AIR トークショー

開催日:平成30年12月12日(水)

・「レジデンスの成果と評価を考える 2」

吉本 光宏(ニッセイ基礎研究所研究理事)

「レジデンスと地域振興の視点から」山出 淳也

(BEPPEU PROJECT 代表理事/アーティスト)

3. 「つちっこプログラム」／子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育をさまざまな形で積極的に行った。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得につなげるよう努めた。

(1) 「本物と出会うー総合的学習プログラム事業」と宝物事業との連携

○連携事業の新規プログラムの企画など

「信楽焼の技を学ぶ！甲賀市指定信楽焼無形文化財の会の陶芸家によるロクロ実演見学」
(来園プログラムに分類)

○連携授業の講師養成事業

○出張授業 I 121件 参加者 7,456人

○学校からの来園プログラム 14件 参加者 1,339人

○陶芸館ギャラリーを活用した連携授業の成果展

「子どもたちの土の造形ー本物との出会いから展」(再掲)の開催

○ねんどと遊ぶ事業 4回 参加者 212人(平均53人)

世界にひとつの宝物づくり事業「世界にひとつの宝物づくり実行委員会」

94回 参加者 2,949人

協力：滋賀次世代文化芸術センター 合計 214人

陶芸の森ボランティア 合計 20人

(2) 連携授業および世界にひとつの宝物づくり展の成果展開催

・「つちっこ！なるほどやきものコーナー」(やきものの素材などを触って体験する展示)

<開催場所>視聴覚室 *希望の団体に展示解説

・「子どもたちの造形

ー本物との出会いから ミシガン大学×小原小学校、甲南第三小学校の子どもたちーコミュニケーションを楽しみながら」(再掲)

<開催日>平成30年7月14日(土)～8月26日(日)

<開催場所>陶芸館ギャラリー

<入館者>5,818人(1日平均153人)

<内容>展示作品約29点(甲賀市立小原小学校と甲南第三小学校とミシガン大学学生による1対1で制作された作品)

第3 産業の振興に関する事業

信楽焼の伝統技術を将来に継承する人材育成事業およびデザイン活性化事業、さらに信楽の陶器業界が運営している信楽産業展示館での展示等により信楽陶器産業の振興を図った。

人材育成事業として、昨年同様信楽高等学校の支援事業をおこなった。また、信楽焼の産業後継者を対象とし、トークショーを開催し、信楽焼の現状から何が可能か検討した。

また、デザイン活性化事業では、信楽焼の既成商品をベースに加飾等を加え、付加価値のある商品を試作した。信楽産業展示館で陶器まつりの時期に開催される展示に出品することで、信楽焼業界への提案を行いデザインの啓発の一環とする。

1. 信楽産業展示館の活用

(1) 信楽産業展示館での展示

＜展示期間＞平成30年10月6日(土)～11月4日(日)

＜展 示 品＞信楽透土を使用した照明（デザイン：落合 勉）

平成29年度に試作した加飾デザイン作品の展示をおこなった。

2. 人材育成事業

(1) 信楽高等学校への支援事業

実施回数：5回 受講者数：215人

ア. デザイン科外部研修受け入れ

＜実施日＞平成30年9月13日(木)

＜参加者＞15人(3年生)

＜講 師＞織田阿奴

3年生デザイン系列を対象とした、作家に指導による陶椅子への絵付け実習をおこなった。

イ. 野焼き体験実習（1年生 産業社会と人間 校外学習）

＜実施日＞平成30年11月16日(金)

＜参加者＞73人（1年生）

産業社会と人間で学んできた陶芸史の内容を実体験することで、陶芸に対する理解を深めた。作陶や造形、焼成作業、陶芸の森施設見学を通して、2年次系列選択の選考材料とする。

ウ. 茶道と陶芸の体験実習

＜実施日＞平成30年10月19日(金)

＜参加者＞74人（1年生）

＜講 師＞奥田 英山（茶道）、神崎 秀策（茶道）、黒川 徹（レクチャー）

1年生を対象に陶芸に関する知識と関心を高めるために、奥田 英山先生に茶道、陶芸に関する講義をしていただいた。その後、グループに分かれて茶道体験、黒川先生による制作に関する考え方を学ぶ目的でスライドレクチャーをおこなった。

エ. 登り窯焼成実習

＜実施日＞平成30年10月26日(金)

＜参加者＞19人（2年生セラミック系列 セラミック実習A特別授業）

伝統的で大規模な登り窯の焼成を体験することで、陶芸作品に対する理解と作陶活動に対する意欲の向上を図った。

オ. 作家指導による陶芸制作実習

＜実施日＞平成30年11月20日(火)

＜参加者＞34人

＜講 師＞藤原 純、徳地 祐二、黒川 徹

作家の指導により設定したテーマにそって制作をおこなった。

(2) 「MINGEIー産地をひらくラディカルな思想 服部滋樹×松井利夫」の開催

近年、新たなムーブメントとして注目されている「民藝」と「産地」をテーマに graf の服部 滋樹さんをお迎えして、当館館長の松井利夫とのトークショーを開催した。

＜開催日＞平成31年3月21日(木)

＜開催場所＞滋賀県立陶芸の森 創作研修館視聴覚室

＜スピーカー＞服部滋樹（graf 代表）×松井利夫（陶芸の森館長）

3. デザイン活性化事業

(1) 既存製品への加飾によるデザイン提案

信楽焼の蛙の置物を取り上げ、デザインをゲスト・アーティストとして滞在した金理有氏に依頼し、新しい感覚の試作品が出来上がった。来秋の産業展示館での展示を行い、業界へのデザイン提案の一環とする。

第4 企画事業

1. ミュージアムショップの運営

展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品など独自色ある商品販売を行った。

また、併せてインターネットを活用したオンラインショップでの商品提供や販売促進に努めた。

特別企画「熊倉順吉の陶芸×21世紀の陶芸家たち」展（会期67日間）

特別展「信楽に魅せられた美の巨匠たち」関連（65日間）

期休館中(カタログ販売)

巡回展（「湯呑茶碗」展、「うつわドラマチック」展）各館委託販売

2. その他

(1) 自動販売機の設置

来園者が自由に憩い楽しめるよう公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供した。

(2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供した。

(3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料を提供した。